

1. 事業の必要性、概要

東アジア地域においては、急速な経済成長に伴う硫黄酸化物等の排出増加による酸性雨問題が深刻化しつつある。このような状況のもと、東アジア地域における酸性雨問題の状況に関する共通理解の形成促進等を目的に、2001年1月から「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)」が本格稼働を開始しており、現在の参加国は13カ国となっている。

今後の国際協調に基づく酸性雨原因物質削減対策に向け、EANETの役割は重要であることから、拠出金を負担し、環境先進国としてこの分野をリードしていく必要がある。

2. 事業計画（業務内容）

EANET は、①東アジア地域における酸性雨問題の状況に関する共通理解の形成促進、②酸性雨防止対策に向けた政策決定に当たっての基礎情報の提供、③東アジア地域における酸性雨問題に関する国際協力の推進を目的としており、共通の手法を用いた酸性雨モニタリングデータの収集・評価、精度保証・精度管理活動の推進、参加国への技術支援と研修プログラムの実施等を行っている。

我が国は、本ネットワークに参画するとともに、参加国として必要な経費の拠出を行っている。

3. 施策の効果

EANET の活動を推進することにより、東アジア地域における酸性雨問題の現状と将来について、参加各国間の共通認識が醸成され、国際協調による東アジア地域全体の酸性雨対策が期待される。

東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET)

＜発足の背景＞

- ・東アジア地域における近年のめざましい経済成長等に起因して、酸性雨の原因となる大気汚染物質の排出量が増加しており、今後もさらなる増加が予測されていることから、影響の深刻化が懸念。
- ・東アジア地域における酸性雨問題に関する地域協力体制の確立を目的として、2001年1月からEANETが本格稼働を開始。

<参加国 (13カ国)>

カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、ロシア、タイ、ベトナム

<目 的>

- ・東アジア地域における酸性雨問題の状況に関する共通理解の形成促進。
- ・酸性雨防止対策に向けた政策決定に当たっての基礎情報の提供。
- ・東アジア地域における酸性雨問題に関する国際協力の推進。

<活動概要>

- ・共通の手法を用いた酸性雨モニタリングの実施
(大気汚染物質のモニタリングも実施)
- ・データの収集、評価、保管及び提供
- ・精度保証・精度管理 (QA/QC) 活動の推進
- ・参加国への技術支援と研修プログラムの実施 等

